

交渉署上申書写訳

採録セリ

拝啓陳者牛心台鉱務ニ閥スル件ニ付今般矢田總領事來訪シ

將軍ヨリノ回答ハ領收取致シ候ヘ共同回答文ニハ鉱務ハ部ノ特權ニシテ之ヲ中間ニ於テ越権許可シ難ク又運炭鐵道亦將

來交通部ニ於テ詮議スベシ云々ト有之候處總領事ノ意ハ其

期ニ至リ將軍ニ於テ極力尽力シ以テ睦誼ヲ敦クセラレ度其

ノ送付越セル圖面ハ参考ノ為將軍署ニ留メ置カレタシトノコトニテ右上申方取計ハレ度旨依頼有之候ニ付何分ノ儀御

回示相成度圖面添付此段及上申候 敬具

同右回示写訳

拝復陳者上申ノ趣闇悉致候矢田總領事ガ本使ノ回答文ニ鉱務ハ部ノ特權ニシテ此際越権許可致難ク又運炭鐵道モ亦将来交通部ニ於テ詮議スベシ云々トアルヲ同總領事ノ意ハ本使ガ其期ニ至リ極力尽力アリタク又圖面ハ参考ノ為メ本署ニ留メ置カレタシトノコトナリシト查スルニ以上兩件ハ皆

部ノ特權ニシテ本使ノ特權ニアラズ但極力尽力ニ就テハ本使ハ勿論此睦誼ヲ尽スペク地図ハ参考ノ為本署ニ留メ置クベキニ付右矢田總領事ニ御伝達相成度右回示ニ及候 敬具

註 本件原文ヲ省略シ矢田總領事代理ヨリ送附越ノ訳文ノミヲ

## 二 天宝山

五九五 一月一日 在中國日置公使(石井外務大臣宛電報)

天宝山鉱山合辦採鉱契約ノ農商部承認ニ閥シ

報告ノ件

## 第二号

天宝山合辦ノ件先般日本側代表者浜名寛祐当地ニ来タリ當館援助ノ下ニ支那側ト交渉ヲ遂ケタル結果浜名ト程光第権利承継者劉紹文トノ間ニ合辦契約ノ成立ヲ見ルニ至リタル處該契約ハ十二月廿五日附ヲ以テ農商部ノ承認ヲ経タル旨今回關係者ヨリ届出タリ

吉林間島ニ転電ス

五九六 一月十二日 石井外務大臣宛

天宝山鉱山合辦採鉱契約成立ニ閥シ稟申ノ件

附屬書一 大正四年十一月十七日附劉紹文及浜名寛祐間

## (附屬書一)

大正四年十一月十七日附劉紹文及浜名寛祐間天宝山合辦採鉱

契約書

## 天宝山合辦採鉱合同

多年日支間ノ懸案ト相成リ居リ候天寶山採鉱之件弊社ニ於テ繼承致シ今般別紙写書之通り解決致候間此段稟申候也

東京市麹町区内幸町壱丁目参番地

南滿洲太興合名会社

大正五年壹月拾弐日 社長 飯田 延太郎印

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

添附書類如左

一、繼承稟請採鉱文写書

一、天寶山合辦採鉱合同写書

一、履歴保結写書

一、副批写書

註 左掲附屬書一、二及四ノ和訳文ハ外務省ニ於テ作成ノ仮訳

ナリ

第四条 依前条之規定甲為代表時非添附乙之同意書或蓋用

代表特定之印章不生効力其印章應由甲乙聯名呈報農商部

及吉林財政局改印亦應聯名呈報

第五条 本鉱中日両經理人或由甲乙親自充任或由甲乙分委

中日各一人充任其職任權限互相平等

第六条 本鉱各項職員由中日兩經理人協商委用中日職員互  
相平均

第七条 関於經營鉱業一切事宜應由甲乙雙方商定舉行

第八条 所有各項工程以及支付款項須由中日兩經理人商妥  
簽字後方可舉行

第九条 所有工人概用中國人但遵守中國法律之韓人得參用  
之仍不得過全數三分之一

第十条 甲乙互相承認凡在与本鉱有利害關係之地方非雙方  
同意不自營同樣事業亦不充任同樣事業之公司職員

第十二条 本合同所定權利非雙方同意不得售賣讓與及抵押  
仍須先行稟請農商部核准

第十三条 合辦之期以五十年為限期滿時如不續訂合同即將

所有物產秉公作價折售其售得款項中日股東按股均分即得

解散所有依本合同取得之採鉱權及其他權利均同時消滅

第十四条 對於鉱業管理上之一切程序及其他行為均遵照鉱  
業條例及其關係諸法令辦理所有稅項亦均照章完納

第十五条 本合同以中華文字繕四份以二份呈農商總長及吉

ニ於テ處理シ中野二郎ト該鉱山トノ関係ハ浜名寛祐ニ於テ

處理スヘク以後此鉱山ハ劉紹文ト浜名寛祐トノ合辦經營ニ  
帰ス茲ニ劉紹文(以下甲ト称ス)ト浜名寛祐(以下乙ト称ス)  
ト締結シタル契約ハ左ノ如シ

第一条 本契約ハ甲乙力鉱業条例第一条ニ記載スル所ノ採

鉱及其附屬事業ヲ合辦スルヲ以テ目的トス此外他業ヲ兼  
營スルコトヲ得ス

第二条 合辦資本ハ予メ銀貨五拾五萬元ト定メ甲乙各其半

額ヲ出資スルモノトス(銀貨五拾五萬元ハ約日本金貨五  
拾万円トス)

第三条 本鉱ノ代表者ハ甲ヲ以テ之ニ充ツ

第四条 前条ノ規定ニ依リ甲ヲ以テ代表者トナストキハ乙  
ノ同意書又ハ代表者特定ノ印章ヲ押捺スルニアラサレハ  
効力ヲ生セス其印章ハ甲乙聯名ニテ農商部及吉林財政厅

ニ届出ツヘク改印ノトキモ亦聯名届出ツヘシ  
第五条 本鉱ノ日本支那兩經理人ハ甲乙自ラ其任ニ当ルカ  
又ハ甲乙ヨリ日本人支那人各一人ニ委任スヘク其職務權  
限ハ相互平等トス

第六条 本鉱各種ノ職員ハ日本支那兩經理人ニ於テ協議ノ

林財政厅立案余二份由甲乙分執為憑  
共計壹拾有五条

大中華民国四年十二月十七日

大正四年十二月十八日

大日本特命全權公使 日 置 益(印)

日本東京市麹町区内幸町 原籍 湖北漢陽縣民籍

現住 北京崇文門外花市中三条門牌五十一号

劉紹文(印)

日本東京市麹町区内幸町 南滿洲太興合名会社代表者

右見証ス

大正四年十二月十八日

以下余白

(右和訳文)

天寶山合辦採鉱契約

曩ニ支那商人程光第ト日本商人中野二郎ノ經營シタル吉林  
天寶山銀銅鉱ハ今般支那商人劉紹文日本商人浜名寛祐ニ於  
テ繼承經營スルコトトシ程光第ト該鉱山トノ関係ハ劉紹文

上採用スヘシ日本支那兩國職員ハ同數トス

第七条 鉱業經營ニ關スル一切ノ事項ハ甲乙双方ニ於テ協  
定ノ上施行スヘシ

第八条 各種ノ工程及金錢仕払ハ日本支那兩經理人ニ於テ  
協議ノ上署名スルニアラサレハ施行スルコトヲ得ス

第九条 職工人夫ハ概シテ支那人ヲ用ユ但シ支那ノ法律ヲ  
遵守スル朝鮮人ヲ使用スルコトヲ得ルモ全數ノ三分ノ一  
ヲ超過スルコトヲ得ス

第十条 甲乙ハ本鉱ト利害關係ヲ有スル地方ニ於テ双方ノ  
同意ナクシテ自ラ同様ノ事業ヲ經營スルコトヲ得ス亦同  
様事業ノ会社ノ職員タルコトヲ得ス

第十二条 本契約ニ定ムル所ノ權利ハ双方ノ同意ナクシテ  
之ヲ売渡シハ讓與シ並ニ抵當トナスコトヲ得ス但シ双方  
ノ同意アルモ先ツ農商部ニ稟請シテ認可ヲ経ヘシ

第十三条 每年一回決算ヲナシ得ル所ノ純益ハ日本支那兩  
國出資者ニ於テ出資額ニ照ラシテ分配ス

第十三条 合辦期限ハ五十ヶ年トス期限満了ノ際若シ契約  
ヲ継続セサルトキハ一切ノ物件ヲ公平ニ評価シテ売却シ  
其代金ハ日本支那兩國ノ出資者ニ於テ出資額ニ照ラシテ

八 満洲鉱山関係雜纂 (二) 五九六

五四二

分配シ解散スルコトヲ得ヘク本契約ニ依リ取得シタル採  
鉱権及其他ノ権利モ皆同時ニ消滅スルモノトス

第十四条 鉱業管理上ノ一切ノ手続及其他ノ行為ハ總テ鉱  
業条例及其関係諸法令ニ遵ヒ辦理スヘク一切ノ税金モ亦

規則ニ照ラシテ納付スヘシ

第十五条 本契約ハ支那文ヲ以テ四通ヲ作リ二通ヲ農商總

長及吉林財政厅ニ提出シ其他ノ二通ハ甲乙各一通ヲ所持  
シテ証拠トスルモノナリ

以上契約十五ヶ条

大中華民国四年十二月十七日

大日本大正四年十二月十七日

原籍 湖北省漢陽縣民籍

現住 北京崇文門外花市中三条門牌五十二号

劉 紹 文(印)

日本東京市麹町区内幸町

南滿洲太興合名会社代表者

浜 名 寛 祐(印)

(附屬書二)

大正四年十二月二十日附繼承採掘願

農商總長

附呈合同二份

履歷保結二份 稟請代表人 劉 紹 文(印)

農商總長

核准立案案實為公便謹稟

及出願候間御許可相成度此段願上候也

中華民国四年十二月二十日

合辦人 浜名 寛 祐(印)

出願代表者 劉 紹 文(印)

農商總長宛

(契約書二通、履歷書保証書二通添附)

(附屬書三)

大正四年十二月二十日附履歷保証書

繼承採掘願

原籍 湖北省漢陽縣民籍

現住 北京崇文門外花市中三条門牌五十二号

願人 劉 紹 文

前清同治癸亥年四月十三日生

履歷保結

吉林省延吉縣下天寶山銀銅鉱ハ曩ニ程光第力許可ヲ得テ開

掘シ後日本商人中野二郎ト合辦ヲ契約シ屢々紛糾ヲ生シ封  
禁セラル、ニ至リ財產地ニ棄テラレ殊ニ惜ムヘキヲ以テ茲

ニ支那商人劉紹文ハ日本商人浜名 寛祐ト契約シ該地ニ於テ  
鉱区六十平方公里ヲ領シ繼續開採度從來ニ於ケル一切ノ紛

糾ハ總テ紹文、寛祐二人ニ於テ整理ヲ担任シ今後一切ノ管

理手続ハ總テ支那鉱業条例及其関係諸法令ヲ遵守シ且ツ支  
那政府派遣員カ隨時出張監督セラル、トキハ日本支那双方

ノ合資分利及當業収支狀況ヲ紹文、寛祐ヨリ実ニ拵テ報告

可致尚ホ鉱区圖ハ目下測量作成中ニ付追テ提出可致候得共  
茲ニ合辦契約案及紹文ノ履歷書保証書寛祐ノ證明書ヲ具シ

稟

繼承稟請採鉱文

原籍 湖北省漢陽縣民籍 現住 北京崇文門外花市中三条門牌五十二号

具稟人 劉 紹 文

前清同治癸亥年四月十三日生

為稟請採鉱事務官查吉林延吉縣屬天寶山銀銅鉱前經程光第稟  
准開辦嗣因与日商中野二郎訂約合辦繆轄叢生致于封禁貨棄

於地殊為可惜今擬由華商劉紹文約同日商浜名 寛祐在該處稟  
領鉱区六十平方公里繼續開採所有從前一切繆轄均由紹文 寛祐

二人担任清理所有以後一切管理程序均遵照中國鉱業条例及  
其關係諸法令辦理並由中國政府派員隨時前往監督凡中日兩

方交股分利及營業收支情形均由紹文 寛祐報告除鉱区圖  
正在測繪暫緩呈送外理合先將合辦合同草案暨紹文履歷保結

寛祐之證明書稟請

核准立案案實為公便謹稟

農商總長

寬祐之證明書稟請

核准立案案實為公便謹稟

農商總長

附呈合同二份

稟請代表人 劉 紹 文(印)

農商總長

附呈合同二份

稟請代表人 劸 紹 文(印)

農商總長

附呈合同二份

稟請代表人 劍 紹 文(印)

農商總長

附呈合同二份

稟請代表人 劍 紹 文(印)

農商總長

附呈合同二份

稟請代表人 劍 紹 文(印)

業事辦歷		前充輝春對辦邊務大臣行營文案會辦又充邊防行營發審 委員又充武衛全軍翼長文案總辦	
人業鉱辦合	姓名	年令	籍貫
浜名寛祐	五十 二歳	日本東京 市麹町区 内幸町 館	北京蘇州 胡同玉翠 興合名会 浜名寛祐(印)
			南滿洲太 簽名蓋印
			社代表者

具保結人王竹溪為出具保結事今結得鉱商劉紹文願遵鉱業條例及其關係諸法律稟採吉林省延吉廳屬天寶山銀銅鉱必無籍鉱招搖情事所其履歷是實須至保結者

具保結人丹鳳火柴公司副理事 王 竹 溪

中華民國四年十二月二十日

(附屬書四)

大正四年十二月二十五日附農商部指令第二八四一號

副 批

農商部批第二八四一號

拠商人劉紹文等稟送繼續開採吉林延吉縣屬天寶山銀銅鉱合辦合同並履歷保結請領該處鉱區六十平方公里核准立案等情已悉查該商等所領鉱區有逾法定制限惟既拠該商等來稟聲明所有從前一切謬轄均由該商等擔任清理兩方交款分利以及營業

中華民國四年十二月二十五日  
英 必 昌 謹印

(右和訳文)

農商部指令第二八四一號

商人劉紹文等ヨリ吉林延吉県下天寶山銀銅鉱繼續開採ノ合辦契約及履歷書保証書ヲ提出シ該處鉱區六十平方公里受領方許可ノ出願ヲ接受シ查閱スルニ該商人等カ領スル所ノ鉱區ハ法定ノ制限ヲ越ユルモ該商人ノ稟申スル所ニ拠レハ從来

機密第一九号

(十月六日接受)

大正五年九月十九日

在局子街

分館主任外務書記生 木 島 仙 藏(印)

外務大臣子爵 石井菊次郎殿

天寶山開鉱狀況調査書進達ノ件

管內延吉縣下天寶山最近ノ狀況ニ關シ調査報告書別紙之通

ノ履歷保証書ニハ未タ丹鳳公司ノ印章ヲ押捺セキス鉱業者資格審査規則第四条ト符合セサルヲ以テ還付ノ後ハ補正スヘシ又日本商人浜名寛祐ノ姓名印内ニ監督ノ二字アルハ殊ニ

根拠ナシ即チ該日本商人ヨリ尋常ノ姓名印ト異ラサルコトヲ声明シ並ニ尋常ノ姓名印ヲ改用スヘシ本部ハ採鉱合辦契

約ヲ吉林財政厅ニ送付スルト共ニ該商人等ヲシテ遵守辦理

(附屬書)

記

一、沿革 滿洲唯一ノ天寶山銀鉱ハ光緒初年ノ発見ニ係り其後數年間密採ヲ默認セシカ光緒十六年十一月當時ノ吉林將軍並ニ璕春副都統等相謀リ政府ノ許可ヲ得テ官辦ト

ナシ湖北漢陽人程光第ヲ擧ケテ鉱務總辦トシ其下ニ監察大管工小管工等ノ職員及採鉱工三百余人鎔解工二百余人ヲ使役シ資金數万両ヲ費シテ事務所及工場等ヲ建築シ鉱区内ニ火炉八十座ヲ設ケ毎座三千斤ヲ鎔解スルノ設備ヲ

ナシ大規模ニ採鉱ヲ開始セリ然ルニ銀ノ產額ハ常ニ一定スヘキコトヲ命シ並ニ鉱區圖ヲ作成シ吉林財政厅ヲ經由シ本部ニ提出スヘシ契約書二通ハ保存シ他ノ二通及履歷書保証書ハ還付ス

右指令ス

五九七 九月十九日 在局子街木島分館主任ヨリ  
石井外務大臣宛

天寶山鉱山最近ノ狀況ニ關シ調査報告ノ件

附屬書 右調査報告書

八 滿洲鉱山関係雑纂 (二) 五九七

五四五

セス光緒十七年ヨリ十九年ニ至ル三ヶ年間ハ一日全鉱区ヨリ七八百両ヲ産シ翌二十年ヨリハ急減シテ八十四両トナリ二十三年ニハ更ニ減シテ三十両トナリ爾來漸減シテ一年数百両ヲ産スルニ過キサルニ至レリ而モ鉱石ノ含銀量ハ当初千斤ニ対シ銀十二両ヲ産シタルモ其產額ノ漸減ト反比シ次第ニ増加シテ千斤ノ鉱石ヨリ三十二両ヲ得ルニ至レリト云フ而モ鉱石ハ銀ノ外多量ノ銅ヲモ含有セルモ捨テテ之ヲ顧ミサリキ斯ノ如ク徒ラニ設備ヲ大ニシテ職工ヲ増加シタルモ採鉱方法幼稚ニシテ機械ナク技師ナキノ有様ナリシヲ以テ出費多キ割合ニ利益少ナク或ハ往々ニシテ欠損ヲ生シ收支相償ハサルヲ見ルニ至リ一時民業ニ委ネ程氏モ從前ノ行掛上百万奔走シテ其振興ヲ計ラント欲シ自ラ上海ニ赴キ外国人ト協同シテ經營セント謀リシモ議合ハスシテ遂ニ事業中止ノ状態トナレリ其後明治四十年十一月邦人中野二郎探險隊ヲ組織シ此ノ鉱山ノ有望ナルヲ聞キ実地ニ見分シ程氏ト熟議ノ末再ヒ開鉱ニ着手シ其精選シタル銀銅ヲ鮮地ヲ経由シテ本邦ニ搬出セントセシモ支那官憲ノ防止ニ遭ヒ多年日支両国ノ懸案トナリ又モヤ空手封禁ノ儘ニ打捨テラレタリ然ルニ

ル十月中旬トノコトナリ

目下据付アル機械ノ名称及個数左ノ如シ

一 瓦斯機関	二台(一台二十七馬力)	獨逸製
一 送風器	一台	
一 旋盤	一台	
一 グリンドー	一台	

技術員トシテハ目下部長一名技師技工五名理事以下事務員本邦人七名支那人五名本邦職工九名朝鮮人五十八名支那人四十二名アリ

職工ノ賃銀ハ日本坑夫一日老円三十七錢鮮支那人雜夫一日四十錢日本大工一日二円支那人大工一日六十二錢ニシテ労働時間ハ四季ニヨリ長短アルモ現今ハ午前六時三十分就業正午二時間ノ休憩アリテ午後六時終業ス

初期ノ產出予想額ハ一日一噸ニシテ精鍊シタル銀銅塊ハ馬車ニテ搬出シ会寧ヲ經テ清津ヨリ海路日本ニ転送スヘシト云フ

四、市区經營 鉱区内ノ南端紅石硝子ニ市区ノ建設ニ從事シ目下建設中ノモノハ即チ第一期ニ屬シ北ヨリ南ニ二百五十余間ノ延長ヲ有シ北ヨリ順次日本人支那人朝鮮人ノ

用地ヲ区劃シ本邦人用地九百坪支那人用地千五十坪朝鮮人用地二千七百坪ニシテ初メ市区建設ヲ發表スルヤ出願者踵ヲ接シテ來リ其數日本人十名鮮人百二十二名支那人百五名ノ多キニ上リ用地ノ貸与ヲナシタルモノ日本人七名支那人二十四名鮮人五十一名ニシテ目下日夜家屋ノ建築ニ着手シ既ニ修築成リテ營業ヲ開始セルモノ五六軒アリ残部モ悉皆本月中ニハ終了スヘキ予定ナリ

五、人口風紀並衛生 天宝山ノ居住者ハ現在主トシテ鉱山ニ關係アル諸請負人及小商人等ニシテ其員數ハ本邦人六十八名支那人百余名朝鮮人百五十余名合計三百余人ニ上リ尚鉱区内ノ部落ニ散在セル居住鮮人ヲ合スルトキハ千余名ニ達スヘシ

鉱坑ニ於ケル日支鮮職工間ノ折合ハ良好ニシテ殊ニ邦人ト鮮人トノ間ハ鮮人カ邦人ニ倚頼スルノ心情ト邦人カ鮮人ヲ保護誘掖スルノ氣性ト相合シテ親善ナル關係ヲ結ヒ居レルモ唯支那人職工ハ鮮人ニ対シテ驕傲ニシテ猥リニ輕侮スルノ陋習アリ鮮人モ亦卑屈心アルヲ以テ稍モスレハ其間疎隔アルヲ免カレス時々一場ノ喧嘩口論ヲ惹起スルコトアルモ而モ鮮人ノ反抗心ノ薄弱ナルト支那官憲ヲ

恐怖スルノ念慮トハ延テ事端ヲ釀ササルノ大原因タリ  
上述ノ如ク目下開鉱準備時期ナルヲ以テ未タ居住者多カ  
ラサルヨリ風紀ノ如キモ比較的良好ニシテ殊ニ会社ニ使  
役スル人夫等ハ總テ之ヲ飯場ニ收容シ会社ヨリ直接監督  
スルヲ以テ労働社会通有ノ弊風ナキモ自然業務ノ振張ニ  
従ヒ人員ノ增加ヲ見ルニ至ラハ不良ノ徒モ混入シ来リ惡  
風汚俗ニ感染スルノ恐レアリ

又衛生ノ如キモ氣候ノ適順ナルト飲料水ノ清淨ナル為メ  
何等悪疫ノ發生ナキモ是レ又居住者ノ增加スルニ従ヒ諸  
種ノ病菌潜入シ来リ殊ニ鮮支人ハ一概ニ衛生的觀念ナキ  
ヲ以テ一旦病菌ノ伝播スルアランカ之レヲ防遏スルニ困  
難ナルノ情アリサレハ上述ノ市区經營ノ如キ此ノ点ニ深  
ク鑑ミ当初ヨリ各戸下水溝渠便所汚物捨場防火上ノ設備  
ヲ整頓セシメ之レヲ一律ニ勵行シテ未來ノ厄災ヲ防止セ  
ントスルニ外ナラス

六、警察 鉱区内ニ支那巡警分局アリ巡警十名駐在シ内一  
名ノ巡長之ヲ監督ス春米来住者増加スルニヨリ多少官紀  
ヲ振肃セント努力セルノ傾向アルヲ見ルモ元來無規律ニ  
シテ訓練ナキ徒輩ノ集合体ナレハ到底貴重ナル多数居住

者ノ生命財産ヲ保護スルノ任ニ当ツヘクモアラス現在此  
地巡警ノ職ニ在ルモノニシテ嘗テ会社ニ使役セラレタル  
苦力ニシテ賭博ヲナシタルニヨリ解傭セラレタルモノア  
リ或ハ附近山林ノ樵夫タリシモノアル等常ニ会社ノ事業  
ニ対シ不快ノ念ヲ有シ近來陸続入山スル多数鮮人ヲ嫉視  
シ故意ニ威圧シテ一時ノ快ヲ貪ルノ風アリト聞ケハ一朝  
有事ノ日ハ却テ匪賊ニ加担シ財物ヲ掠奪スルヲ擅ニスル  
ヤモ計ラレスサレハ鉱区内外ノ安寧秩序ヲ保持スル為メ  
本邦警官駐在ノ必要ハ焦眉ノ急ニシテ会社側ヨリモ只管  
之レカ実現ヲ希望シ居レリ

由來天宝山ハ間島ノ一大資源ニシテ之レカ開発ハ実ニ天  
來ノ福音ニシテ其開鉱ノ声ヲ聞クヤ農產物以外ニ他ニ何  
等產業上ノ施設ナキ當地方ノ居民ハ一齊ニ歡喜シ直接間  
接ニ其利沢ニ浴センコトヲ期待シ附近ノ住民ハ言ヲ俟タ  
ス遠ク北鮮地方ヨリ視察ト称シ或ハ会社ニ使役セラレン  
ト欲シ統々トシテ天宝山ニ蝟集シ當務者モ一時之レカ応  
接ニ困惑シタリト云フ実ニ会社ノ鉱務ノ盛衰ハ龍井局子  
街頭道溝居住大小商民ノ經濟狀態ニ影響スルモノ甚タ大  
ナルモノアリト謂フヘシ

以上

五九八 十二月二十日 在間島鈴木總領事代理ヨリ  
本野外務大臣宛

## 天寶山銀銅鉱粗銅輸出開始ニ關シ報告ノ件

機密第七〇号

(大正六年一月四日接受)

大正五年十二月二十日

在間島

総領事代理領事 鈴木要太郎(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

邦人浜名寛祐支那人劉紹文ノ合辦ニ係ル當地天寶山銀銅鉱

正式開鉱ニ關シテハ客月七日付公信第一五〇号ヲ以テ及御

報告置候處同鉱ニ於テハ其後着々工程ノ歩ヲ進メ採掘シタ

ル鉱石ハ同山ニ於テ粗雜ナル製煉法ヲ行ヒ粗銅トナシ之ヲ

大阪方面へ輸出シタル上再製煉ヲ行フ事トナシ目下一日一

頓宛ノ粗銅ヲ得ルニ至リ候而シテ之ガ第一回ノ輸出トシテ

此程右粗銅合計二万二千余斤(即約八噸)ヲ當地海關經由

輸出スルコト相成タルガ右粗銅ニ對スル課稅稅目ニ閔シ

支那海關ト鉱山會社側トノ間ニ見解ヲ異ニスル点有之候処

右課稅稅目ノ決定ハ将来ニ對スル重要問題ナルヲ以テ鉱山

會社側ニ於テモ亦タ海關ニ於テモ容易ニ協定ノ運ニ至ラス

五九九 三月十六日 在中日置公使ヨリ  
鞍山站鐵鉱採掘ハ原契約改訂ノ上許可スペキ

旨農商部ヨリ内示アリタル件

附屬書 右改訂契約書